令和５年度 外国語活動・外国語科 研究のまとめ
榎原 朱梨・森澤 葉子・伊藤 美絵

１．研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体
（１）小学校外国語活動 「This is my favorite place.」
資質能力 児童・生徒の姿 具体的な手立て キーワード
授業
構想力
〇1 時間を通してどの児童
も積極的に英語を使う姿
が見られた。
・多様な活動形態で発話を促すことで，
英語での発話の量と質の向上に繋げ
た。
・身体表現を伴った歌などを適宜取り
入れた。
活動形態の工夫
興味関心
教具の工夫
〇本単元のターゲットセン
テンスだけでなく，既習
事項を用いてその場で質
問を考え，やりとりする
姿が見られた。
・言語活動の目的や本時のめあてに立
ち返ることで，児童の思考を促し，次
の活動への必要性を引き出した。
・教科横断的な内容など児童の答えた
くなるような例を用い，デモンストレ
ーションを行った。
・既習事項を想起できるような教室環
境作りを行った。
思考の深まりへ
の支援
環境設定
授業
実践力
〇発音や表現の訂正を行っ
たり表現を引き出したり
するなど，コミュニケー
ションをよりよくするた
めに教え合う姿が見られ
た。
・暗示的な誤り訂正だけでなく，明示的
な誤り訂正を取り入れた。
・コミュニケーションの良いところを
児童自身で見つける活動を行うこと
で，児童同士で教え合うなどのコミュ
ニケーションの質の向上につながっ
た。
協働的な学びへ
の支援
意見の共有

授業
分析・
評価力
〇振り返りから本単元で学
習する表現に留まらず，
既習事項を活用しやりと
りする良さに気づき，よ
りレベルアップしていき
たいという気持ちを持っ
ていた。
・授業後にアンケートを実施し，単元の
振り返りを行った。
具体的な振り返
り

（２）中学校外国語科「Think Globally Act Locally」
資質能力 児童・生徒の姿 手立て キーワード
授業
構想力
〇視点を持って話し合いを
進める姿が見られた。一
方で，グループによって
は協働的な学びをするた
めに必要な視点の共有が
不十分なところもあっ
た。
・伝えたい思いを大切にするために，テ
ーマから自分たちで考えさせた。
・ALT や他のグループから意見をもら
い，よりよい動画が作れるように対話
的な学びを中心に行った。
興味関心
思考の深まりへ
の支援
協働的な学びへ
の支援
〇それぞれの平和感を融合
させ，伝えたいことを話
し合う姿が見られた。
・個人思考から集団思考させることで，
それぞれの平和感を知った上で伝え
たい内容を考えさせた。
協働的な学びへ
の支援
授業
実践力
〇既習表現を使って表現で
きるように試行錯誤する
姿が見られた。グループ
を超えて協働的に学びあ
う姿が見られた。
・簡単な日本語に変換することで，自分
の言葉で表現するように指導した。
・言いたかったけど言えなかった表現を
全体でシェアすることで，アイデアを
共有した。
表現の工夫
授業
分析・
評価力
〇振り返りから，本当に伝
えたいことを伝えるため
に必要な英語表現を学び
たいという思いを抱き，
英語学習の意欲向上へつ
ながった。また，アメリカ
での平和教育にも興味を
もち，国際人になるため
の１つのステップとなっ
た。
・本単元の自身の振り返りにとどまら
ず，異文化理解やオーセンティックな
コミュニケーションを通して学べる
ことに気づける振り返りを行った。
具体的な振り返
り

２．研究についての考察
 今年度の研究を通して，外国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表 1 に示すように，再検
討した。なお，下線部は新たに加筆したものである。

表 1 外国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力
資質能力 教科等が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力
・教科横断的な内容など児童や生徒の興味や関心を引き出すような目標の設定
・児童や生徒の実態に合わせ，コミュニケーションの目的・場面・状況を意識した言
語活動の設定
・英語表現の定着に向けて，児童や生徒が異なる場面や機能で既習事項を活用する場
の設定
・児童や生徒同士が協同的に学び合うことができるような場の設定
授業実践力
・児童や生徒の実態を考慮した英語使用
・英語を用いてコミュニケーションを図るロールモデルとしての立ち振る舞い
・安心してコミュニケーションを図ることができる雰囲気づくり
・児童や生徒の発話を引き出すような英語での問いかけ
・効果的な誤り訂正
授業分析・
評価力
・児童や生徒の授業中の姿や振り返り等に基づく省察や授業の改善
・ルーブリックや振り返り等に基づいた形成的評価の実施

 以上のことから，本研究を通した成果と課題を以下のようにまとめた。

成果 課題
〇授業実践力の一つである効果的な誤り訂正を教
師が行うことで，児童や生徒同士で発音や表現
の訂正を行ったり表現を引き出したりするなど
の，よりよくするために学びあう姿に繋がるこ
とが示唆された。
〇児童や生徒の既習事項を活用して相手から表現
を引き出したり，表現を試行錯誤したりする姿
から，既習事項を活用することができる場を教
師が意図的に設定することや，児童・生徒の困
り感に対し，思考する場を設定するといった授
業構想力や授業実践力の具体が明らかになっ
た。
〇また，教師が授業構想力・授業実践力を働かせ
ることで，児童生徒の伝えたいことを伝えられ
るようになりたいという英語学習への意欲向上
につながると分かった。
〇適切な英語を用いて表現したい内容を英語で伝
える力がまだ十分に身についているとは言えな
い。既習事項を活用し，児童や生徒が表現した
い内容を表現することができるようにするため
の教師の具体的な手立て等について，引き続き
検討が必要である。